

連携センターだより

VOL. 25

R5. 7

発行：(医)如水会今村病院 地域医療連携室 TEL 0942-87-1577 FAX 0942-87-1580



下肢静脈瘤の治療

総合外科部長 福永 亮大



～ 下肢静脈瘤の疫学 ～

欧米の有病率は20～60%にもなるとされており、本邦でも10～20%の有病率との報告があります。平成25年の日本静脈学会での報告は、年間43,958肢の手術が行われています。男女比は1：2.4で女性が多く、年齢とともに有病率も上がっています。また、有症状の患者でも、病院を受診した割合は3割程度と、疾患認知度が低いのが問題になっています。

～ 下肢静脈瘤の治療 ～

静脈の拡張を認めるのみで、無症状の場合は、弾性ストッキング着用などの保存療法を行います。しかし、痛み、だるさ、むくみ、こむら返りなどの症状を有する場合は、手術の適応となりますが、以前はストリッピング術（血管抜去術）のみで、創も大きく、術後の痛みも強くありました。

そのため低侵襲手術が望まれていましたが、2011年に血管内焼灼治療が保険適用され、さらには、2019年に静脈内に医療用接着剤を注入する血管内塞栓術が保険適用となりました。これらのカテーテルを用いた手術は、局所麻酔で行うことが可能で、創の大きさも数mmであり術後の痛みも少なく、早期の社会復帰が可能となっています。

当院は、佐賀県4件目、佐賀東部地区では初めての認定施設として、血管塞栓術、焼灼術ともに施行が可能であり、下肢静脈瘤の治療において地域の皆様に貢献して参ります。

6/1に合同症例検討会を開催しました

鳥栖・三養基消防本部との合同症例検討会を開催致しました。

- ❖症例①：Door to balloon Timeの短縮に向けて（56歳 男性 ST上昇型急性心筋梗塞）
- ❖症例②：大量心嚢水貯留・心タンポナーデの対応について（84歳 男性 呼吸苦）
- ❖ECMO/ECPRについての講演（集中治療部長：福田 顕三医師）
入電～現着～救急搬入～処置～入院～転帰までを現場の消防スタッフと確認し、大変有意義な会となりました。

